お母さんありがとう

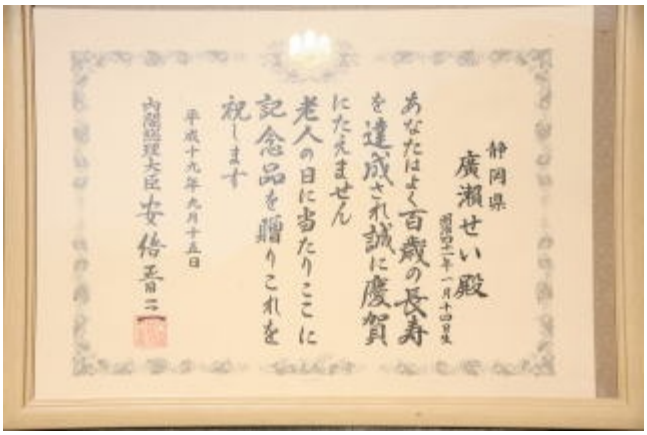
私の母は今年(2008年)11月3日に百一年の生涯を終わりました。富士山の綺麗に見える病院で、優しい顔で眠るように息を引き取ったようです。　長い間母を支えてくれた多くの皆様にお礼を申し上げます。
　私は18歳の時に母の元(富士宮市)を離れて暮らしてきましたが、母とはずっと一緒の屋根の下で暮らしてきたような気がします。お袋とは本当に有難いものだと思います。

お袋は百歳を越えて生きました。晩年、耳は遠くなりましたが、認知症にもならず、強気の性格と言葉は百歳を過ぎても健在でした。このように長生きすることは、本人のDNAと本人を取り巻く社会、とりわけ家族、中でも兄貴の嫁さん、の支えや対応が良かったものと思います。本当に皆様に感謝しております。最近は老後の生活が家族とともに出来ないことが多くなっていますが、母は具合の悪くなったときは入退院を繰り返しましたが、基本的には自宅で4世代同居の生活をしました。

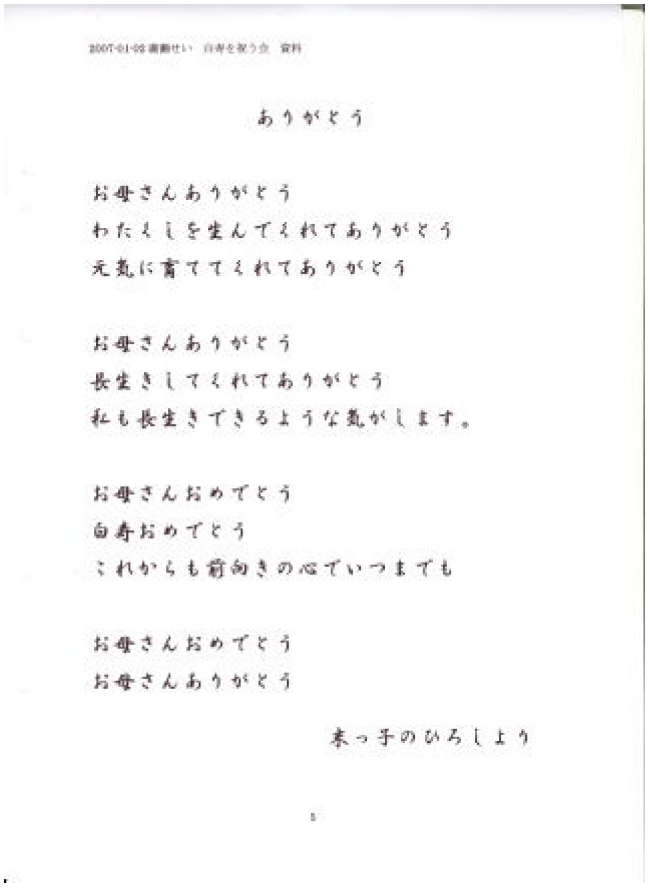
　私たちが今この地球に生きていられることは、多くの幸運の結果であることを学びました。すなわち「インフレーション」に始まる宇宙のなかで出来た太陽系で絶好の位置につけたこと、その後隕石の落下によって恐竜に替わって人類が主役になれたことは幸運の大きな部分といえます。さらに数え切れない幸運の連続によって人間は生まれてきます。この世に生をうけても、五体のどこかが不満足であったり、事件や事故に巻き込まれたり、病気になったり、戦争などで長く生きられない人が多くいる中で、母は天寿を真っ当できたことは本当に良かったと思います。

　しかしながら、母はいつも幸せだったかというとそうでもないと思います。昔の日本は、私たち農家に生まれたものは特に、貧乏だったと思います。家では子供のときから当然のこととして、農作業の手伝いをしました。子供をたくさん生んだのは働き手としての期待もあったのではないかと思います。もうひとつの理由は幼くしてなくなる人が多かったこともあったようです。事実母の義父(父の父)の兄弟は早死にする人が多い中で義父(母の)だけが育ったため、わがままに育てられ、この影響が母に諸にきたと聞いています。このために、夫婦で家を出ることも考えたことがあったと、間接的に、聞いています。
　昔は冷蔵庫というものがなかったので、たまたま多く仕入れた食品などは、少し異臭がしても食べていました。このためお腹をこわしたりしたことが何回かありました。このために私は今でも生ものなどはにおいを嗅いでから口に入れる習性があります。
　衛生状態は特に悪かったと思います。いまでこそ私は、温水でお尻を洗って乾燥させるものを使っていますが、当時(昭和25年ごろ)は、とにかく跳ね返りが嫌で、落下させては避ける状態でした。ですから本来必要な生理現象を嫌なものと考えるようになってしまいました。
　こんな生活の中でも母は強く、前向きに生きました。私たちに対しては、厳しさと優しさをバランス良く接してくれたように思います。今考えると、自分が悪いことをしたと反省しているときは寛容に、そうでないときは厳しく怒られたように思います。親父に怒られたときは大抵お袋がかばってくれたような記憶があります。

　母は、いわゆる、農家の長男の嫁ですから、農業をやりながら、私たち子供6人を育て、夫の親や兄弟の面倒をみることが仕事であったと思います。還暦を過ぎた後からは詩吟の免許皆伝をとったり、老人会などの旅行を楽しんでいました。さらに晩年にはデイサービスに通ってはそこでリーターシップをとっていたようです。そして白寿の祝いは市長から、百歳の祝いは内閣総理大臣から賞状を頂きました。私は長年会社務めをして、いろいろな賞も頂きましたが、内閣総理大臣から賞状をもらったことはありません。母はえらい。尊敬し感謝いたします。



私たち子供が中心となり母の白寿の祝いをしたときに小さなパンフレットを作成し、私はその中に下記のありがとうという言葉を寄せました。



2007-01-02 廣瀬せい 白寿を祝う会 資料

ありがとう

お母さんありがとう
わたくしを生んでくれてありがとう
元気に育ててくれてありがとう

お母さんありがとう
長生きしてくれてありがとう
私も長生きできるような気がします。

お母さんおめでとう
白寿おめでとう
これからも前向きの心でいつまでも

お母さんおめでとう
お母さんありがとう

末っ子のひろしより

2008年12月14日